

瓦谷山



瓦谷山だより

発行日 2016年12月吉日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.33

早くも歳の瀬を迎えました。今年の当山は相変わらず工事、工事と忙しくバタバタと過ごしてしまつた一年でした。振り返ってみれば、ずいぶんと仕事をしたなと思える一年でもありました。徐々に坐禅会などのお寺の宗教活動もできるようになってきました。来年はもっと充実した活動を展開していきたいと思ひます。

さて、本年の下北半島、恐山への団体参拝旅行もまた、楽しく有意義なものになりました。とりわけ印象深かつたのは、下北交通最後のバスガイドになつてしまつたといわれる四十代後半位のお歳のバスガイドさんでした。死者の赴くお山、恐山に対する地域の人々の思いはもろろのこと、原発や核燃料サイクルに対する地元の複雑な感情などについても詳しく話してくださいました。行程の最後、新青森駅へ向かう車中では、さまざまな失敗や挫折を経験したご自身の人生を語り、そんな中でも常に暖かく支えてくれたご両親への感謝の言葉を涙ながらに述べられました。そして早く亡くなつたご両親に対して、自身の「さびしい」気持ちを吐露されるとともに、「どんな状況になつても子供のために一日でも長く生きてください」というお話をもつてガイドを締めくくられました。

人は必ず終焉の時を迎えます。それはいつやつてくるのか、どのような形なのか、誰にもわかりません。がんという病気は、残された時間がよくわかるので、考えようによつては悪いものではないといわれる方もいますが、その間本人と家族は死と向き合い、激しく葛藤することも知られていきます。一方、事故や天災で亡くなられた場合、本人はあつという間ですが、残された家族の無念は一生つきまとうものです。バスガイドさんのご両親は早かつたとはいへ、還暦前後までの寿命があつたそうですからお幸せな方だとも思ひます。しかし早いか遅いかという問題ではありません。両親とはかけがえのないものであり、別れの悲しみは常に私たち人間の心を苛むものです。

先日、金沢文庫に見学に行きました。そこで見つけた展示図録には、金沢文庫に所蔵される書写本の裏にしたためられた、さまざまな方の手紙が収録されていきました。その中の「金沢貞顕書状」という文書には、称名寺

住職が亡くなったことに対し、驚きと再び会えなくなつたことへの嘆きが記されていきました。またある書状には、故人が大事に慈しんでくれたことへの追憶や、百ヶ日が過ぎてでもなお悲しみがこみ上げてくる思いが切々と述べられています。あるいは年月を経ても亡父の命日に墓参りをしたいという願いや、「顕時十三回忌法要諷誦文」には、胃病に悩まされながらも時の政権を支え、北条家からの信頼が厚かつたその人柄を褒め称える文章が見て取れます。寿命が極めて短く、遺体を埋葬し供養することができない人がほとんどいなくなつた八百年も前、政争や戦に明け暮れた武士であつても、先に旅立つた人への温かな想いを抱いていたことを学びました。

お寺にお参りにおいでになつた方々とお話をすると、「どうせ子供たちはお墓の面倒を見てくれないから」とか、「子供の自由にさせてやりたいので、私は消えるようにいなくなりたい」ということを言われる方が多いように思ひます。私の母も、「早くお迎えが来てほしい」が口癖でしたし、入院中には「あんたは忙しいから見舞に來なくていい」と言い続けていました。息子の身からすれば、「少しでも一緒にいたいのになぜ帰れと言ふの、死んで欲しくはないのだよ」と言いたいところですが、面映ゆくてとても口には出せません。そのうちに「私の葬儀はしなくていい、お骨は捨て、残つたものは全部燃やしてほしい」と訴えるようになり、ほとんど閉口しました。心の中は、「お骨は捨てられないし、きちんと埋葬したことまで心が落ち着くのだよ。それに葬儀もしないでどうやって離れて住むお婆さんたちとお別れするの」という思いでいっぱいでしたが、まだ亡くなつたわけでもないからと言ひあぐねているうちに、あつけなく逝つてしまいました。

個人の自由やお金が何よりも尊重され、「自己責任」という言葉に象徴されるよう、人に迷惑をかけないことが美德となつている今の日本では、親は子の厄介になりたくない、お金を使わせたくないと思ひあまり、何でも先回りして言つてしまうのかもしれないかもしれませんが、ドライであるかのように見える今の子世代も、口には出さないだけで、昔の人々と変わらぬ深い愛情を秘めているように思ひます。

私たちの心はお金や自由ばかりでは満たされることはなく、人の想いの温かさや自然の奥深さに触れ合うことにより、初めて充足されるもので

行事報告

◇盆施食法要

七月七日・八月六日は縁の会の方を対象に、八月九日は檀信徒を対象に盆施食会の法要が執り行われました。各座とも多くの方が参列。故人様、ご先祖様に寄せる皆様の暖かな心が会場に満ち溢れていました。



法要と御詠歌の様子

す。人の心を理解し、自然を大切にできる社会へと少しでも変えていくために自分にできることは何なのか常に自問自答をしています。真光寺ではお正月にご祈禱が行われます。新年を迎えるにあたり、夢と願いを心に描き、その実現のために少しずつでも努力を重ねていきたいものです。皆様のご参詣をお待ちしています。

住職 岡本 和幸
合掌

◇秋彼岸会法要

九月二十五日は檀信徒の方にご来山頂き彼岸会の法要が行われました。法要後には落語家の柳家花飛（やなぎやかっつとび）氏をお招きし、落語を二題披露していただきました。



落語家の話に場が盛り上がります。

◇団参旅行

今回の団参旅行は青森県下北半島の恐山に参拝いたしました。縁の会の藤井文子様よりご寄稿頂きましたので、七ページをご覧ください。

◇真光寺囲碁の会

十月十七日、十八日の二日間真光寺囲碁の会を開催いたしました。この会は囲碁だけでなく、坐禅や朝のお勤め等、修行体験も出来る禅寺ならではの行事です。今回は六名の方にご参加を頂き、思う存分対局を楽しみ、秋の夜長を満喫しました。



交替で対局します

◇聖典講読の会

毎月一回開催している聖典講読の会。現在は道元禅師によって示された『学道用心集』（修行僧が仏道を学ぶ際の心得）について学んでいます。住職による解説の後は美味しい精進料理をいただきます。大変好評をいただいている行事ですので、皆さんも是非ご参加ください。



和やかな雰囲気勉強



昼食は精進料理

◇仏像彫刻体験教室

仏師の先生のご指導のもと、毎月第一・第三水曜日に開催しております。毎回十名近くの参加があり、皆さん彫刻刀に魂を込め、一彫一彫真剣に取り組みます。時間をかけて彫り上げた時の達成感や充実感は格別なものがあります。



集中して制作



作品の展示会

縁の会総会報告

十一月三日に縁の会総会を開催いたしました。

第六回目となりました縁の会総会の模様です。例年通り午前は法要、住職による会計報告、事務連絡をお伝えし、午後は昨年に続きアジア地域への絵本を届けるボランティア活動、および余興となりました。

会計報告では昨年度、大きな支出項目として「夕照庵」の建立があったことその他、収支とも健全な運営状況を報告しました。また、樹木葬墓地管理の状況としてイノシシによる被害が大きくなっていること、その対策としてイノシシ用の侵入防止柵を設置したことに触れました。

その他、「お葬式のお布施」について、その意味の解説がありましたので要点をご紹介します。過去、お葬式とは火葬や埋葬、宗教儀礼の他に社会的にその人の死を告知し、



今年は133名のご参加となりました。予報とは変わって好天に。



恒例のお弁当はピクニック。

社などに安易に僧侶を紹介してもらふと、その布施は、葬儀社の紹介料や僧侶個人の懐に入り、寺院が継続してこの世にあり続ける機会を失うこととなります。真光寺ではお葬式をとてても大事に考え

さらには相続を行う場でした。相続は親族、地域、そして地域の中心である寺に対して行われました。相手が寺である場合はこれを布施として供えたということになります。布施は寺の寄進となり、寺院そのものになります。戦後、農地解放によって困窮した寺は寄進へのお礼として品物ではなく、「戒名」を授与してました。戒名があることでお釈迦様のお弟子としてあの世でも穏やかに過ごせるという安心を提供したのです。現代では「自分らしい」お葬式が尊重されます。半面、社会的な処理を葬儀で行わなくなってきました。このことが家族や地域に心残りを生んでいます。お葬式という儀礼は、社会的には死を告知する意味に加えて、死を惜しむ機会でもあるのです。また、布施の金額を気にするあまり、葬儀



高騰の影響？産直野菜は即完売。



抽選会、余興も大盛り上がり！

ています。お布施の金額がどのようであつてもご希望があれば必ずご供養に伺いますので、まずはご相談ください。シヤンテイ国際ボランティア会(SVA)が主催する「絵本を届ける運動」は昨年度より総会の行事として盛り込んでいます。運動の趣旨は主に東南アジアの教育後進国、難民居住地域に向けて、絵本を贈るといふものです。参加者にお手伝いいただいたのは日本製の絵本の日本語の文章に現地語のシールを貼るといふ作業です。現地語はミミズが並んでダンスをしているような文字ですので、どのシールがどの文節に対応しているかはシールのヒントが頼りです。貼り付ける順番をひとつ



絵本はSVAを經由して各国に。

間違えると、その本の現地語は日本語に対して一文節ずつれ続けることとなりますから、なかなか神経を使う作業となります。自ら作業をした絵本には現地語のサインをして作業は終わりになりません。(この現地語でサインをするのが大変！)

本年二月には絵本の送り先であるミャンマーを視察しました。現地の図書館には、この図書館と呼ぶには蔵書が少なすぎる場所に、確かに日本の方が作業した絵本が並んでいました。また、荷台付きバイクを改造した移動図書館が孤児院で活動する様子を見学しましたが、子供達の真剣な眼差し、乾いた土に水が染み込んでいくような情報への接し方を目の当たりにし、なるべく良好な絵本を数多く送ることの重要性を確認いたしました。真光寺では引き続きSVAを中心としたボランティア、社会福祉への貢献を目指してまいりますので、ご支援のほどお願い申し上げます。

縁の会事務局からのお知らせとお願い

●樹木葬墓苑のご案内

- ①墓苑内での火気の使用は山火事の恐れがありますので、所定の場所を除き線香を含めご遠慮ください。(場所 屋外：桜の苑 屋内：観音堂)
- ②供物や人工物の放置、設置はご遠慮ください。放置されていた場合には撤去いたします。
- ③供え花を植えることのできる範囲は碑の周囲に限ります。ポット苗十個程度がめやすです。種類は一年草でお願いいたします。
- ④墓地の除草は土の流出につながりますので、軽めにしてください。また、除草方法は刈取りをお

すすめしています。刈り取った草は区画内にしきつめて処分をしてください。

⑤発生したゴミは原則持ち帰りください。草花は土をよく落したものであれば寺で処分いたします。墓苑に放置しないようお願い致します。

●樹木葬墓苑の管理

①一年を通じて定期的に下草の刈取りを行っていただきます。季節や天候により管理工程以上に繁茂する場合もありますのでご理解のほどお願いいたします。

②十年目を過ぎて樹木の強剪定、伐採が始まりました。目印にしていた植木がなくなるといったことも発生いたしますが、森林管理の必須事項ですのでご了承ください。

③種が飛んできて大きくなった木、病樹、規定に反した植樹等については、適宜伐採いたします。

④森の苑中央部の井戸は水が枯れる場合があります。出ない場合は「よび水」を入れてください。

それでも出ない場合には水道水をご利用の上、寺務所にお知らせください。

●害獣対策

①スズメバチ・環境変化による影響で例年以上に観測しています。墓苑内のいたるところに出現しますので、十分に気をつけてください。刺された場合には速やかに寺務所までお知らせください。

見かけた場合には声を出す、走りだすなどの過剰な反応をせず、ゆっくりと静かにその場を離れてください。

②カラス・カラスによるいたずらも増えていきます。墓苑に植えられた花をついばんだり抜いたりしま

す。追い払いをしていますが、お花を植えた場合には被害にあう場合もあります。

③イノシシ・餌を求めてこの集落に頻繁に出没するようになりました。夕方になると姿を見ることが多くなりましたので、これまで以上に対策を施しています。イノシシが入った後はその地面が十センチほど耕された状態になります。墓碑が鼻先で飛ばされる場合があります。日中の管理業務にて発見次第修理していますが、そのような状態を発見されましたら寺務所にお知らせください。

●送迎について

送迎をご利用される方は、遅くとも前日の午後四時までにご予約をお願いします。また、ご利用された方は恐縮ですが、車両の維持費に充当いたしますので、お布施をお願い申し上げます。

●花植え代行について

①昨年度より墓苑にお花を植えるお手伝いをしております。全体の管理作業の中で行いますので、月単位の受付となります。日時のご指定には対応いたしかねますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

②植えたお花は二〜三ヶ月ほど持ちますので、通年お花をお供えしたいという方は一年に四、五回ほどのお申込みで十分となります。

(冬場に関しては、植え付け直後に霜が降りますと、花は枯れてしまいます。補償出来かねますのでご了承ください。)

※お知らせ事項について

上記のお知らせ事項は、お墓参りにいらっしゃるご家族、ご親族、ご友人にもお伝えください。また、ようお願い申し上げます。

上総自然学校

(真光寺の里山再生活動)

暑い八月が過ぎ、九月の下旬になるといよいよ稲も頭を垂れはじめ、収穫の時期を迎えます。

今年の九月は雨ばかりでした。乾かない田んぼではコンバインがぬかるみにはまってしまったため、なかなか収穫作業が進みません。一度は完全に動けなくなり、ついには重機で引き上げなければいけない場面もありました。九月の後半には、水に浸かっているわけでもないのに、降雨にさらされ続けた稲が発芽してしまったケースもありました。そのせいか収穫量は前年に比べ少なくなっていました。

そんな雨の中、収穫祭を開催いたしました。雨によるキャンセルはお一人もなく、参加者の田んぼとお米への愛情を強く感じました。これからも皆様にご支持いただける自然学校であるよう努力してまいります。



重機でコンバインを引き上げている様子



たくさんのご参加ありがとうございます！

収穫量は少ないのですが、食味は例年どおりのA判定となり、とても美味しいお米をご提供できることになりました。例年にも増して希少なお米ですので早めのご注文をお願いいたします。また、大変好評のもち米の作付を増やしました。こちらもお注文をお待ちしております。(糸田)

平成二十八年度米(新米)販売中

ご注文はお電話かファックスで

- 【農薬】いもち病予防の種子消毒のみ
- 【肥料】井内牧場の牛糞堆肥のみを使用
- 【精米】一時間かけて低温で自家精米

～こしひかり(うるち米)～	
2キロまで 玄米	500円 / 1kg
2キロまで 白米	550円 / 1kg
3キロ以上 玄米	450円 / 1kg
3キロ以上 白米	500円 / 1kg
～つきみもち(もち米)～	
少量パック(3合)	300円
2キロまで	650円 / 1kg
3キロ以上	600円 / 1kg

- ☆玄米の残留農薬検査の結果(自主検査)
二百五十項目の農薬 検出せず(五年連続)
- ☆玄米の放射線測定結果(自主検査)
ヨウ素・セシウム 134・セシウム 137
検出せず(検出限界値 1ベクレル/kg)

イベント日程 一月～三月

- ◇『七草かゆ作り』
・1月5日(木) 13時半～16時
- ★『餅つきと椎茸の菌打ち』
・1月28日(日) 10時半～16時
- ◆『自家製ざる豆腐づくり』
・2月12日(日) 13時半～16時
- ◇『野鳥の観察会』
・2月19日(日) 13時半～16時
- ◆『花巻寿司づくり』
・2月26日(日) 13時半～16時
- ◇『お花見トレッキング』
・3月29日(水) 13時半～16時

〈参加費〉

- 各イベント名の上にある記号です。
- ★大人 2,000円 / 小学生 1,000円
- ◆大人 1,000円 / 小学生 500円
- ◇500円

〈申込み方法〉

- ①氏名
- ②住所
- ③連絡先
- ④生年月日
- ⑤血液型
- ⑥緊急連絡先(本人様が怪我をした時などの連絡先)を明記の上、メール・ファックス・電話でお申込みください。(連絡先は最後のページに記載があります)

団参紀行

縁の会会員 藤井文子様

十月二日、恐山参拝と青森の旅に参加させていただきました。

千二百年前、慈覚大師円仁様がお告げに導かれて開かれた「霊場・恐山」へ、私は初めて参拝させていただきました。紅葉には少し早い陸奥の秋は思ったよりあたたかな日和に恵まれ、ご住職様はじめ職員の方々、檀信徒、縁の会会員の方々、ほとんどの皆様と日頃お目にかかって親しんでおりますので、和やかで楽しい三日間を過ごさせていただきました。東京駅から東北新幹線で青森へ。「八戸駅」からのバス旅は、いくつもの山を越え、途中沢山の大きな風車の林立している所は本州の最果ての地で思いがけない風景に出合った気がいたしました。少しなまりのある温かな感じのガイドさんの説明と海の幸ゆたかな昼食も美味しく快適な旅の始まりでした。

「恐山」は山内の目につくところにも一草も見当たらず、想像以上に荒涼とした風景は「別世界」の趣がありました。宿坊「吉祥閣」は想像とは違い明るく清潔な感じに安心いたしました。山内の散策は明朝にゆっくり



今回は総勢36名の旅行となりました。

することにしました。

夕食は広く明るい「食堂」で立派な朱塗りの御膳を前に食前食後のおつとめは、毎月の七日法要のような心地好さでした。

夕食後の入浴は、山内にある数棟の浴場は暗い所であり、出る勇氣もなく、宿坊

の大浴場に入りましたが高めの硫黄泉でした。硫黄成分の影響で「テレビ」もすぐに故障してしまいうそう、ホールはビデオテープで恐山の案内が流れているのみでした。翌朝は六時半から朝のおつとめがありますとのことで、早く床につきましたが静かに夜が更けても寝つかれず、夜明けが待ち遠しい一夜を過ごしました。

翌朝、広い山内に出ましたが、大小の石がゴロゴロとしていてところどころガスが噴き出している様子に、ふと中学生の時の旅行での那須「殺生石」の風景を思い出しました。

大きな池の対岸の木立は、確かに「極楽浄土」を思わせる風景でした。あちこちに大小のお地藏様や赤い風車等が廻っている様は人々の来世への思いがこめられているのでしょうか。もう一つ私には初めて目にした心に残るものがありました。本堂に入りました時は気づかず、出ようとしてふとなにかにひかれるように上を見た時、沢山の「花嫁人形」や他の姿の人形がありました。皆様が先に出られて急いでいたので職員らしい方にお聞き



湯気が立ち込める地獄の景色。強烈な硫黄臭。

しましたら、「若くして亡くなられた方や大切にされていた人形を修められたようです」とのことでした。何となく私にも人形に託された方々の想いが痛いほど感じられました。私は「イタコ」の口よせで亡夫の想いを聞きたかったのですが、今は三名のイタコが大祭の時だけと伺い願いは叶いませんでした。

「恐山」に心を残して「佐井の仏ヶ浦」へ。遊覧船でガイドさんの案内を聞きながら一〇〇メートル前後の巨岩、奇岩自然の造形の妙に。「仏様」に関わる名称をつけた地元の人々の思いを感じました。不思議な世界から「大間」へ。小雨の中、バスガイドさんおすすめめのタコ足の干物を求め、昼食後は浅虫温泉へ向かいました。車内は午睡の心地好さに包まれているようでした。一日目の「海扇閣」の夕食も海の幸盛り沢山。全くお酒の飲めない私は、ご住職様はじめ皆様方の歌や踊りを楽しみながら、ひたすら食べるだけでした。翌朝、海に面した窓から穏やかな陽射が。次の青森市場でのお土産もバスガイドさんおすすめの「スタミナ源元気だれ」を。地元では常備している万能調味料とのことで、娘の分も求めた海産物と結構な



仏ヶ浦。奇岩の風景で特別天然記念物。晴れていれば南国情緒が感じられる美しい場所とのこと。この日は曇天も海の透明度に驚く。

荷物となりました。

次は有名な竜飛岬へ。石川さゆりのオルゴールつきの歌碑、太宰治文学碑等、強い風の中階段国道へ。入り口近くで記念切手一組求め昼食後は青函トンネル入り口

へ。展望台から新幹線が通り過ぎるのを見て、子供のようには歓声をあげ、新青森駅へ夕食のお弁当とガイドさんに教えられた「八甲田」と云うチーズケーキを求めました。帰宅してからほのぼのとした味に北国の楽しかった旅を思い返しました。

初めての「恐山」参拝。イタコの口よせは叶いませんでしたが、ご住職様はじめお寺の職員さん方の細やかなご配慮と三日間同じドライバーさん、ガイドさん、添乗員さんのあたたかな案内に心から感謝申し上げます。

さらに今回の旅で心打ちとけることが出来た檀信徒、縁の会の皆様方のおかげで心に残る良い旅を楽しませていただきました。本当にありがとうございました。



新幹線が通り過ぎるのを、ただ見る場所。はじめはシブシブだった一行も、新幹線が通るときには歓声が。無条件に童心に帰る不思議な場所。



恐山にて。左端が藤井文子さん。

死と宗教の関係性

平成十九年三月に東長寺寺報「萬亀」にて掲載。

住職 岡本和幸

本誌上で数回にわたり、終末儀礼や葬送のあり方について考えてきました。宗教は死と密接に結びついていますが、整理するとおおむね三種類の結びつきに分かれるように思います。一つは死後の世界に宗教的な価値観、世界観が反映される場合で、たとえばキリスト教の復活思想や、仏教の西方極楽浄土などの死後世界に宗教は深くかかわっています。二つ目は直接的な死の看取りや、葬送儀礼、その後の供養儀礼に宗教が介在する場合です。三つ目は死を前提とし、生前の生き方や思想を宗教が主導する場合です。今回はこれらの側面から直接的な死と宗教との関係を考えてみたいと思います。

仏教的死後世界

私たちはどうしても死ななくてはならない運命を持つています。死ぬことは生まれるということの対極にあり、生まれることが私の意思の及ばないことであるように、死ぬこともまったく意思の及ばない無条件の事象であることはいまでもありません。私たちは潜在的にわからないことに対して無上の恐怖心を持つています。それはたとえば外国などをはじめて訪れる場合に感じるものと同様なものかもしれませんが、死に対する恐怖心の場合、時間空間その他のすべてに私の意志が

及ばないために、より強い恐怖心となって現れるのだと思います。人間が生まれる前に意思を持つていたとしたら、生まれることに對しても期待感よりむしろ不安と恐怖心を持つて生まれてくるのではないかと想像できます。

人類は古くからこの死に對する恐怖心や不安感を軽減するための数々の物語を考え、しばしば死と同じように人智を超えた存在である神仏の世界を構築することで、不安の解消に努めてきました。仏教には哲学的な教理と、救済の宗教という二面性があるので、死後観が複雑になっています。

まず教理的には死後の世界などというわからないことは考えても仕方がないという「無記」という立場で、つまり死後世界にはふれないということとです。これを前提とはしているのですが、仏教にはさまざまな死後世界があります。たとえば阿彌陀仏の西方極楽浄土、薬師如来の薬師琉璃光浄土、観世音菩薩の補陀落浄土などで、これらは中国で成立した大乘仏教經典に依拠しています。いずれも仏に對し強い信仰心を持ち、善行につとめ正しい信仰生活を行うことで、その仏の世界へ行けるといふ考え方です。たとえば「私を信じれば必ず私の国に来ることができると宣言した阿彌陀仏への信仰は、浄土教という大乘仏教の一つの大きな流れとなっています。仏教の死後世界は生きていく時の心の支えとして、あるいは人生の目標として設定されたものであることは明白です。死後の世界を設定することで、人類が死の不安を軽減してきたことは間違いありません。「仏さまがいっしょだよ」とか「神様のところに行くのだから怖くないよ」など励ますことが死にゆく人

を勇気づけることになることを考えれば、死の不安軽減の妙薬である死後世界の安易な否定は疑問を感じざるを得ません。逆に自分にとって都合のいい死後世界の設定は、よりよい生き方と結びつかないばかりか、かえって命を粗末にすることにつながりかねません。現実には「殉教者は死後天国に行き、美女に囲まれ何不自由ない生活を享受できる」というイスラムの教えが貧困層の若者をテロにかり立てる一因ともなっています。これなどは宗教と死後世界の関係がバランスを崩した一つの例ではないかと思えます。

死の受容と宗教

ただ、死後世界が本当に死にゆく人の力になっているのかというと、一概に肯定はできません。死の不安は最終的には本人が死を受容することでしか解決しないからです。つまりは死ぬ覚悟です。誰しもうれずれかの段階では覚悟ができるように思えます。それはあきらめという言葉なのかもしれませんが。生きてゆく元気がなくなるといふことかもしれません。覚悟ができた人は大抵自分のことよりも人のことを心配します。子どもが両親に「悲しまないで」と告げたりするのもこの覚悟によるのではないのでしょうか。

最近出合った本の中に、作家の高見順さんの最期の様子が描かれていました。体をがんむにむじまされた高見順さんは、一九六五年八月十七日に意識不明となりました。しかし彼の肉体はまだがんと闘い続けています。その日の午後、高見さんの病室を三島の龍沢寺専門僧堂の中川宗淵老師が訪

れました。高見さんと中川老師は一高時代の同級生で、とても仲が良かったそうです。中川老師は巻紙に書いた「決別の辞」を枕元に置き、じつと高見さんの顔を覗き込んでいましたが、突然「こんなものは取りましょう」と、高見さんの身体に埋め込まれていた生命維持装置のパイプをはずしてしまったそうです。あつげにとられる医師や家族に軽く会釈をすると、中川老師は二時間近くも読経を続けました。

その時の様子は夫人である高見秋子さんの手記によれば、次のようであったといえます。「朗々とした、身にしみわたるお声だった。最後に『喝!』と大きな声で叫ばれたとき、高見は私のほうを見て、息をひきとったのです。閉じられた双のまぶたからは、はらはらと涙があふれ、両方の瘦せた頬に流れ落ちました。」

(参考・『生き方のコツ死に方の選択』鎌田竇高 橋卓志 集英社文庫)

現代では殺人罪に問われるかもしれませんが、中川老師が生命維持装置をはずしたのも読経をしたのも、いわば高見さんと高見さんの家族の死の恐怖、あるいは生への執着という病に対する宗教的な治療であったように思います。『喝!』という励ましも覚悟を決める最良の薬であったと思えてなりません。いずれにしても、高見さんや高見さんの家族と中川老師の信頼関係がなければ実現できない送り方です。中川老師はたまたま僧侶ですが、実際の死の現場で、死にゆく人が覚悟を決めるためには、医師と患者、あるいは患者と家族の信頼関係がもつとも大きな力を発揮するのだと思います。それは宗教的な理屈とは一線を画すも

のだと思われれます。

死と宗教の関係

この逸話のように、宗教者と死にゆく人やその家族に確固たる信頼関係があれば、宗教的な治療によつて死への恐怖心や生への執着という病に対処することは可能だと思えます。ただしそれは宗教的にバランスの取れた共通の死後観があつてはじめて可能になるのです。したがって宗教によつて死と直接的に対略するよりは、日ごろから宗教に親しみ、死に対する価値観をだんだんと形成していくことが、自他の死が迫ったときに覚悟できる力となつていくのではないかと思います。

死という不条理の前では理屈は無効です。しかし自分の心を不条理な事象に対処できるようにするために、宗教は大変有効なものであるうと思えます。ましてや数ある宗教の中でも仏教は成仏という独特の考え方を持っています。人が亡くなることも成仏といえます。生きてさとりを得ることも成仏です。成仏とはめざめることです。宇宙の真理にめざめ、より幸せな人生を送ることを成仏といえます。死にゆくことは無条件な宇宙の真理です。これを受容できる自己を作り上げること

もまた成仏です。仏教という宗教そのものにも、あるいは俗信に近い葬送儀礼にも、逝くものには安心と勇気を、送るものには癒しと成長が期待できるようなプログラムが組み込まれています。こうした考えを良く学び、だれもが成仏できるように努力を重ねていきたいものです。

ご寄進者ご芳名

- 金拾萬 円 樋口 柚美子 様
- 金拾萬 円 畠山 ひろ子 様
- 金伍萬 円 廣瀬 康英 様
- 金伍萬 円 廣瀬 地栄子 様
- 金参萬 円 伊藤 義幸 様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からのご寄進は諸堂建立に充てさせていただきます、食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

平成二十九年年回表

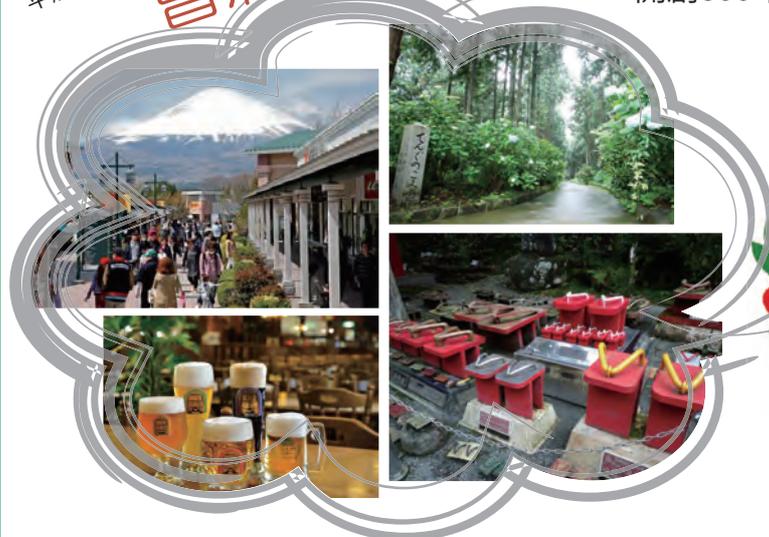
一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

平成29年 3月12日
曹洞宗大雄山最乗寺参拝と御殿場の旅

みんなで行こう！
真光寺の団参旅行

開創600年の霊場

このたび、曹洞宗大雄山最乗寺参拝の日帰り旅行を企画いたしました。最乗寺は創建に関わった僧侶が天狗になり山中に身を隠したとされるお寺で、下駄をお供えするユニークなパワースポットです。昼食は御殿場にてバイキング！午後アウトレットにも立ち寄る充実のバスツアーです。大人気の日帰り旅行。お早めにお申し込みください。詳細は別紙にて！



行 事 予 定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分

費用：3,500円 / 1回参加

場所：真光寺（参加者が3名以上で開催）

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に応じたペースで、取り組みます。 ※要予約

精進料理と聖典講読の会 《どなたでも参加できます》

日時：1月25日（水） 4月26日（水）
2月22日（水） 5月31日（水）
3月29日（水） 6月28日（水）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付（精進料理）

場所：真光寺

住職による仏教解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。

※要予約

親子で体験 坐禅・写経会

日時：毎月第4日曜日

15時～16時（参加費300円程度）

親子で参加の坐禅と写経会です。心を養い、集中力を高めます。お気軽にご参加下さい。

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日
15時～16時30分

坐禅初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。坐禅が出来ない方も椅子坐禅で無理がないように参加できます。休憩をはさんで2回坐禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会もごさいます。

※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しますので14時30分までに起こしてください。



葬儀セミナー 《どなたでも参加できます》

日時：3月20日（月）
13時30分より

費用：無料

場所：真光寺

三回目の開催となります。初めて参加をされる方も前回の内容を確認したい方も是非この機会をご利用ください。葬儀の具体的内容から、見積もりまで詳しく知ることができます。

※要予約

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修証会年頭祈禱

《檀信徒》

日時：1月3日（日）14時より
 新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念し大般若
 祈禱法要を行い、法要後には余興を行います。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月19日（日）14時より
 春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を
 予定しています。

花まつり法要・檀信徒総会

《檀信徒》

日時：4月2日（日）11時より
 お釈迦様の誕生をお祝いします。法要後に檀信徒
 総会を行います。

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

1月 10日・24日	4月 11日・25日
2月 14日・28日	5月 9日・23日
3月 14日・28日	6月 13日・27日

時間 19時半より（5月以降は20時より）
 ※ご詠歌はどなたでもご参加できます。
 お気軽に問い合わせください。

紫陽花の会

《どなたでも参加できます》

日時：1月19日（木）	4月20日（木）
2月16日（木）	5月18日（木）
3月23日（木）	6月22日（木）

午前11時より午後2時半頃
 費用：1,000円 昼食付（精進カレー）
 境内や樹木葬墓地の植栽管理にご協力をいただく
 会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参
 加下さい！昼食の精進カレーも大好評です。
 ※要予約
 ※送迎有り（次項午前の時間）

真光寺囲碁の会

《どなたでも参加できます》

日時：4月5日（水）～6日（木）
 14時から翌日13時30分解散
 費用：8,000円 1泊3食
 場所：真光寺
 桜の咲く真光寺で囲碁をうちませんか？初心者から
 日本碁院六段の方までいろいろな
 レベルの方がいらっしゃいますので是非この機会に挑
 戦してみてください。日帰りのご参加も可能ですので
 お問い合わせください。
 ※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：2月23日（木）
 5月29日（木） 午前11時より午後2時半頃
 費用：3,000円（昼食付）
 定員：20名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。
 午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精
 進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際に
 戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正
 式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂に
 ご安置します。
 ※要予約
 ※持ち物：漢和辞典

縁の会春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月20日（月）11時より
 縁の会合同での春彼岸法要を行います。
**午後は葬儀社の方を招いて葬儀セミナーを開催い
 たします。** 弁当付。
 ※要予約
 ※午前のみ、午後のみのお出席もできます。

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月7日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食は餅つき、午後は年頭祈禱法要・お焚きあげ供養
 ※前年の御札や御守、お正月のお飾りをお持ち下さい。合同でお焚きあげ供養をします。
 2月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
 3月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
 4月8日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭
 5月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
 6月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
 ※要予約 ※午前、午後のみのお出席もできます。

“お寺で初詣” 年頭祈禱法要のご案内（元日～3日）

新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して個別のご祈禱を承ります。
右写真の木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。事前申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。

受付時間 午前9時～午後4時まで15分刻み（元日～3日 3日は正午まで）

法要時間 約15分

祈禱料 3,000円～5,000円程度

願意 木札に書き入れます、2つまでお選びできます。

- ①家内安全 ②諸災消除 ③諸願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全
⑥合格祈願 ⑦厄除守護 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩身体堅固
⑪良縁祈願 ⑫安産祈願 その他、車の祈禱等ご希望に応じてご祈禱いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）はご持参下さい、お焚き上げいたします。



御仏供米
よろずのことに良い

ランドセル御守・ミニ御守
お孫様の交通安全に



交通安全
反射ステッカー

交通安全
御守



木札

※その他、恋の御守りや厄除け香守りなどご用意しております。

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時07分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発9時00分→袖ヶ浦BT9時58分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時06分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時02分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時40分→袖ヶ浦BT12時45分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時40分→袖ヶ浦BT12時45分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)